

提言	都市の魅力や活力の向上、市民生活の豊かさの向上に向け、市民・民間主体の国際交流の裾野の拡大と担い手の育成に取り組むこと。
主旨	委員発言要旨
国際交流に対する興味・関心のきっかけづくり	最近の日本の大学生は、あまり国際化に関心がない、海外にもあまり出たがらないという話を大学の先生から伺った。そこをまずどうやって巻き込んでいくのかということが一歩目だと感じる。
	今の日本の若い方はあまり国際交流や留学に興味がない印象を受ける。学校教育において、受験のための英語教育と別に、もう少し普通に興味を持ってもらうところから何かアプローチした方がよいのではないかと。
	外国人ともっと普通に交流できるような機会を増やし、お互いを知ることが大事だと思う。知るきっかけとして芸術を使うとか、舞台芸術を中心としたイベントをやるのが、もっと簡単にできると良いと感じている。例えばコンサートやイベント後に、参加者が相互に交流できる機会をもっとつくれたら良い。また、そういったイベント等々に対して、行政の支援をいただくとありがたい。
	京都市として様々な国際交流・多文化共生の取組を実施いただいているが、その内容が十分に市民に共有されているのか。取組について市民へ発信し、知ってもらうことが、「裾野を広げる」ことにつながるのではないかと。
交流活動の仲間づくりや、継続・発展のサポート	一定の共通認識、おもしろさを感じている人たちが集まったときに、それが個人の集まりからグループになっていく。そのゼロを1にするところでは、グループ化するという意味での専門性を発揮できるグループワーカーのような伴走者が必要ではないかと。
	行政からの発信だけでは、仲間づくりや活動になかなかつながらないので、初めはしっかりと刺激して、支えて、それから見守っていくという、サポートをもう少し手厚くしていく必要がある。
その他	京都市の国際化に対する一般市民の関心度は低い。国際化と言えば国と国との関係のように捉えられがちだが、つきつめれば人と人との関係である。どれだけ市民が自分ごととして捉えてもらえるかが重要だと思うので、何か効果的な施策を打ち出せば。
	既に個人レベルで自分の活動を発信している方は数多くいらっしゃるが、皆がアクセスしやすいツールを活用していくことも必要。行政だけではできない部分について、民間企業や学校と連携しながら進めていくことも必要かと思う。

提言	国籍や文化の違いに関わらず、すべての人が互いに尊重し、支え合える多文化共生社会の実現に向け、外国籍市民等の地域参加の促進やそれを支える担い手の育成、その前提となる外国籍市民等に対する理解の促進に取り組むこと。
主旨	委員発言要旨
1 外国籍市民等に対して	
外国籍市民等の地域参加	<p>外国籍市民の方が多文化共生アドバイザーのような感じで、お客様として外国の方を呼ぶにはどうすればいいかなど、アドバイザーとして派遣されて講演する、という取組をされていると伺ったことがある。外国籍市民の方が多文化共生のプロというか、専門家として、色々教えてくださいみたいなことがとてもいいと思う。</p> <p>日常の中で町内会等できちっと住民との付き合いができていて、非日常にも支え合うことができる。これまで、町内会の加入に何のメリットがあるかと聞かれた際、なかなか答えにくい部分もあったが、災害時にどうするかという訴えかけをしていくのも有効だと思う。</p> <p>外国籍市民の困りごとについて、マイナスをプラスにすること、皆が安心して暮らすためのスタートラインに差がある部分は埋める、補うというのは必要なことだが、そこからより楽しく、より豊かにという部分に関しては、それぞれの立場の方が持っている自分のスキルや知識、能力を使って、お互いに楽しめる、お互いに持ち寄ってシェアできるようなものが醸成されていくとよいと感じている。そのような取組をしたいと思ったとき、形にできる仕組みがあればよいと考える。</p> <p>公的な場面で外国籍の方が活躍されることは、ほかの外国籍市民への勇気付けにもなるとともに、外国籍市民が増えているという意識変革につながると思う。</p> <p>人口が減少し、町内会が弱体化してきた中で、外国籍市民に入っただいて、協働する、担い手となっていただくための方策を考えていく必要がある。そのためにも外国籍市民に対してこのような声の掛け方があるというようなマニュアルなどがあればよいと思う。また、既存の制度の中で地域で活動している外国籍市民が京都には多くいらっしゃるのでもし何か制度の壁があるのであれば、変えていくようなシミュレーションを行い、自治体自身で行っている工夫をもう一歩進める努力ができればよいのではないかと。</p> <p>外国籍市民が区役所を訪れた際、タブレットやビデオを通して京都市の地域活動について知ることができればよいと考える。また、それらを活用し、外国籍市民がアイデアや意見を投稿できる仕組みができればよいと思う。</p>
外国籍市民等と地域をつなぐ担い手の創出	<p>日本の方と外国籍市民との考え方にどうしてもギャップがあったりするので、それを理解していくために、コンシェルジュのような人が必要になってくる。そういう人が中心になって、交流を促すことができれば良いのではないかと。</p> <p>他都市の取組にもあるが、京都としても、外国籍市民からの日常の相談に応じる橋渡し役を設ける制度を、新しい公共という形で、京都発の良いものをつくっていただきたい。</p> <p>外国人の方を町内会に受け入れるというプロセスを見て興味深かったことがある。抵抗を持たれる方が多い中で、ファシリテートの役割に積極的な方がいらっしや、その方が周りを説得したり、一緒にやりましょうと誘ったりする役割を果たすことで、外国人の方がコミュニティの中に入っていったのを実際に見たことがある。何か特別なイベントを行って成果を残すということではなく、日常の中でそうしたファシリテータになってくれる人がいるというのはとても大事だと思う。</p> <p>市民目線でいえば、外国籍市民等と話したいと思っても、何語でしゃべればよいのか等、会話をする前から諦めてしまうようなところがあり、プロの通訳ではなくても、市民と外国籍市民等の間を取り持ってくれるような、国際版民生委員みたいな方がいてくれると、何か変わるのではないかと。また、その活動に対し報酬があってもよいのではないかと。</p>

主旨	委員発言要旨
言葉の壁による情報格差の解消	<p>外国籍市民等が多く住んでいる自治体として、日本語教育に力を入れるべきだと考えている。駐在員の妻や、国際結婚をした女性等、これまで日本で教育を受けたことがない人が増加している。そういった方々は、日本語に接する機会が少ないため、行政としてサポートする必要があるのではないかと。コミュニケーションを取り、地域コミュニティに入っていくためには最低限の日本語を話せる必要がある。また、サポート体制の強化によって、京都ファンが増え、それにより京都に住む人が増え、ひいては担い手の増加につながるのではないかと。</p> <p>恐らく自治会とか町内会に対する認識を全く持っていない外国籍市民も多いし、国籍別に見てもベトナムやネパールの住民が急激に増えてきているということもあるので、より積極的に、その人たちにどうやって情報を届けるのが大事だと思う。例えば留学生だったら学校に派遣してもらったり、働いていらっしやる方だったら企業に行っていたりしてはどうか。</p> <p>外国籍市民等が多く居住されている地域でも、自治会の役員などを担っておられる方はなかなかいない。開かれていないというわけではなく、言葉の壁も当然あるが、心の壁みたいなものがまだあり、お互いにちょっと遠慮し合っているような感じがある。</p>
2 日本人に対して	
外国籍市民等に対する理解・意識改革	<p>一般市民の外国籍市民等に対する理解を促進するような取組が重要である。市民しんぶん等の京都市が出すメディアで特集を組み、京都に住んでいる外国人が日本人と同じように暮らしながら、地域活動に参加している等、一般市民の理解を深めていくことがまずは必要ではないかと。</p> <p>京都市のコミュニケーションチャンネルを使って、京都に住んでいる外国人の実態の紹介や、こういう活動している人がいますとか、こういうふうには外国人の家族が生活していますとか、身近な例から少しずつ外国人が住んでいても普通ですよ、別に怖いことではないですよという意識を高める必要があるのではないかと。</p> <p>外国籍の方を歓迎する情報発信と同時に、差別にきちんと反対するという発信も非常に重要だと思う。</p> <p>京都というまちが多様な文化や価値観と共生するコミュニティとして、ウェルカムなんだというメッセージを、リーダー（市長）から繰り返し届けていることが分かるまで発信していただくというのも、間接的に担い手の育成や市民の皆さんの個々の意識を変えていくところに関わっていくのではないかと。</p> <p>これから日本も人口減少が進み、一人当たりのGDPを維持するには、人口の約10%が外国人になる必要があると言われていたが、それほどの数が外国籍の方になると、ある程度抵抗感がある人が増えていくことが、欧州を見ると予想される。日本はこれからそうならないように若いうちから多文化共生に関する教育を進めていかなければならない。</p> <p>外国籍市民等が多く居住されている地域でも、自治会の役員などを担っておられる方はなかなかいない。開かれていないというわけではなく、言葉の壁も当然あるが、心の壁みたいなものがまだあり、お互いにちょっと遠慮し合っているような感じがある。【再掲】</p> <p>「あなたも「自治会」・「町内会」に入りませんか！」という外国籍市民向けのチラシについて、自治会に関わっておられる方にとっては、近所にも外国人の方がいらしたという形で意識を高めるのにも役立つと思う。</p>